

国語 第4学年 漢字の広場③

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

既習漢字の読み・意味を確かめ、観察の記録の文章の中で使う。教科書の図や課題は転載せず、本案独自の短い作文で用法を確かめる。単元の終わりに残すのは、観察の記録の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)エ	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。

単元の目標

学習した漢字を読み、文や文章の中で意味に合うように書いて使うことができる。相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学習した漢字を読み、文や文章の中で意味に合うように書いて使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○既習漢字の読みと意味を短い文で確かめる。学校や家の近くで観察したものについて、見たことと気付いたことを短く書く。。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○相手に読んでもらい意味の合わない箇所を確かめる。辞書や教科書を使って漢字と文の表現を直す。	思①（発言・学習記録）



本時の案

本時の目標：相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「観察の記録で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」 【めあて】既習漢字の読み・意味を確認、観察の記録の文章の中で使う。 〈予想される児童の反応〉 ・読みが同じでも意味に合う字を選びたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「観察の記録で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」 相手に読んでもらい意味の合わない箇所を確認める。辞書や教科書を使って漢字と文の表現を直す。 観察の記録の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・読みが同じでも意味に合う字を選びたい。 ・前後の文と合わせると別の漢字が合う。 ・習った字を自分の文章で使うことができた。	対象を表す名詞と変化を表す動詞を区別し、送り仮名を含めて文中の意味を確認める。使う漢字は当該学年の既習範囲から選ぶ。まだ習っていない字を書くことを評価の条件にせず、辞書や教科書で確かめてよい。四年生では字形が似る部分に印を付け、漢字の意味と送り仮名を声に出して確認する。 想定するつまずき：漢字だけを並べて、何が変わったかが分からない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えている。（発言と学習記録）
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・習った字を自分の文章で使うことができた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「観察の記録で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、漢字だけを並べて、何がどう変わったかが分からない。この場合は、対象を表す名詞と変化を表す動詞を区別し、送り仮名を含めて文中の意味を確かめる。使う漢字は当該学年の既習範囲から選ぶ。まだ習っていない字を書くことを評価の条件にせず、辞書や教科書で確かめてよい。四年生では字形が似る部分に印を付け、漢字の意味と送り仮名を声に出して確認する。おおむね満足できる状況は、相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

観察の記録の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年上巻」136行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

